

教育方針

国際社会に貢献できるリーダーを育てる

心豊かなリーダーを育てる

創造力・自己発信能力をもったリーダーを育てる

国語科が育てたい児童・生徒像

教材を通して幅広い知識を習得し、独演的になることなく、多様な価値観を受容できるバランス感覚に溢れた児童。

5年

月	学習項目	学習目標・学習内容	探究 【Ⅰ】仮説検証型【Ⅱ】グローバル型 【Ⅲ】創造表現型【Ⅳ】その他
4	詩【朝のルー】谷川俊太郎 物語【のどがかわいた】ウーリーオル ブ 文法【文の成分】	・詩にこめられた作者のメッセージを読み取り、そこにある全人类的な視点を次の教材【のどがかわいた】につなげていく。詩の分類方法についても学ぶ。 ・イスラエルの作家が「他者との融和」というテーマで書いたものであるというところに着眼し、人間同士の関係のみならず、国際間についても融和が必要なのではないかとする作者のメッセージに迫る。 ・主語、述語、修飾語などの相互の関係を理解す	【Ⅱ】【Ⅳ】社会科で学んだ知識をもとにして、詩中の各都市間の時差計算を行う。 【Ⅱ】世界の多様な地域の現状について考える。 【Ⅰ】【Ⅱ】【Ⅳ】作者が作中の全寮制学校の同室のメンバーに、それぞれ「イスラエル」「パレスチナ(アラブ諸国)」「イギリス」「日本」という国家の姿を仮託したのではないかという仮説を立てたうえで、それを検証しながら、緊張が続く中東情勢の背景にある宗教問題、歴史問題について考えていく。
5	解説文【新聞を読もう】光野桃 説明文【固有種が教えてくれること】 今泉忠明	・今日の情報化社会の中では、メディアも多様化する と同時に、個人での情報発信も簡単にできるよう になっている。氾濫する情報の取捨選択が迫られる現 代社会において、「情報」との向き合い方について考 える。 ・日本古来の在来種を守ることの重要性が書かれた 文章を読みながら、今日の環境問題について考えて いく。10月に取り組む「動物を守りたい君へ」および2月 に取り組む「注文の多い料理店」でもテーマとする今 日の文明の在り方についても考えていく。	【Ⅰ】五大紙とテレビ局との関係性を知るとともに、各紙の報道姿 勢の傾向を同一のニュースに関する記事をもとに考える。 【Ⅳ】今日問われる「メディアの倫理」について考える。 【Ⅰ】【Ⅳ】種々の環境問題に関して、その発生の原因、過程に ついての仮説を立て、それを理知的な知識をもとにしながら検証 していく。そのうえで、背景には今日の産業構造、社会構造があ ることを知る。
6	物語文【たずねびと】朽木祥 語句【ことわざ・慣用句】	・広島への原爆投下の悲劇が描かれた作品を読 み、平和の尊さについて考えていく。また、日本が開 戦にふみきった理由を近代史を紐解きながら考えてい くとともに、原爆投下を決断したアメリカの思惑など についても考えていく。 ・語彙力の獲得を目指す。	【Ⅰ】日本の開戦までの経緯をABCD包囲網やハル・ノートの内 容などをふまえながら考えていく。また、アメリカが日本に原爆を投 下した理由、広島・長崎を投下場所に選んだ理由などを様々な 見地から推理していく。 【Ⅱ】唯一の被爆国として、日本は国際社会の中でどのようなこと をしていくべきなのかを考える。 【Ⅳ】ことわざや慣用句の成り立ちについて考える。
7	作文・ディベート	・与えられたテーマ、もしくは任意のテーマに関しての 作文、ディベートを行う。	【Ⅲ】原稿用紙の使い方、ディベートのルールなどを知る。
9	物語文【大造じいさんとガン】椋鳩十 語句【熟語の組み立て】	・動物と対等であろうとする主人公の姿に学ぶととも に、動物でさえも持っている「仲間を思う気持ち」とい うものについても考える。また、本作品がいわゆる『国策 文学』であったのではないかという仮説にも触れ、その 根拠はどこにあるのかということも探っていく。 ・語彙力の獲得を目指す。	【Ⅰ】本作の「国策文学疑惑」について、作品が書かれた当時 の時代背景や作中の記述をもとに考えていく。 【Ⅳ】本作を「本意ながらも編まれた国策文学」と仮定したう で、それを推進した当時の日本を取り巻く状況について、「たずね 人」で学んだことをもとに考えていく。
10	説明文【動物を守りたい君へ】 高槻成紀 語句【熟語の組み立て・敬語の知 識】	・大量生産、大量消費型の文明がグローバルスタン ダードとなってしまった感のある今日であるが、アイヌの 自然観に言及した本文を通読することで、先に取り組 んだ「固有種が教えてくれたこと」で考え始めた文明社 会のあり方についても考えていく。考察を深めたうえで、 2月の「注文の多い料理店」にテーマを引き継いでい く。 ・語彙力の獲得を目指す。	【Ⅱ】様々な場面でグローバル化が叫ばれている昨今であるが、 あえて「グローバルスタンダード」を定義する必要があるのかとい うことを考え、多様な価値観を認めていくことの大切さを考えていく。 【Ⅳ】価値観の一義化によってもたらされた様々な悲劇について、 アイヌ民族迫害の歴史はもとより、同様の史実をふまえながら考 えていく。
11	物語文【カレーライス】重松清 語句【敬語の知識】	・同世代の主人公をフィルターとして、個々の親子関 係を見つめ直すきっかけを与えると同時に、微妙な年頃 における理想的な親子関係について考える。また、核 家族化、共働きなどに起因する今日の変容した家庭の 変容などについても考えていく。 ・学校目標となった丁寧な言葉遣いを習得する。	【Ⅰ】作中で作られる「カレーライス」には、その時々親子関係、 主人公の様相などのさまざまなことが含意されているのではない かという仮説を立てたうえで、作品を読み進めながらそれを検証し ていく。 【Ⅳ】人間の精神の発達過程について考える。また、男女雇用 機会均等法の施行以来の社会の変容についても考える。
12	古典常識【月の異名】 古文暗唱【竹取物語】	・古語の響きに慣れるとともに、古典に対する興味、 関心を亢進させる。	【Ⅱ】太陰暦から太陽暦に移行した理由について考える。 【Ⅳ】平安時代についての考察を進めていく。
1	説明文【おにぎり日本人】増淵敏之 古典【古典文学:おくのほそ道】	・馴染み深い食べ物である「おにぎり」が、実は日本人 の宗教観と深く結びついた神聖な食べ物なのだとい うことを説明した本文を読むことで、「日本人」とはどのよ うな民族であるのかを考える。 ・古語の響きに慣れるとともに、古典に対する興味、 関心を亢進させる。	【Ⅱ】真のグローバル化を図っていくためには、まず自国の伝統的 な言語文化や精神性を理解していくことが必要であるということ を知る。 【Ⅰ】芭蕉忍者説を検証する。
2	物語文【注文の多い料理店】 宮沢賢治 古典【古典文学:おくのほそ道】	・作品を通読することで、作者が発した自然への畏怖 を忘れた人間への警告を読み取る。また、多くの近代 知識人が危惧した盲目的な欧米信奉というものにつ いても考える。 。1月に同じ	【Ⅰ】この作品は当時の日本社会への警告であるという仮説を 立てたうえで、それを検証していく。 【Ⅱ】作者が抱いた「盲目的な欧米信奉」に対する危惧を、明治 以降の日本の歴史と照らし合わせて考えていく。 1月に同じ
3	作文 ディベート	・設定されたテーマに沿って起承転結のどとどった文 章を書く。 ・様々な社会問題に関して知り、議論を深めていく。	【Ⅲ】原稿用紙の使い方、段落の構成の仕方などを考える。 【Ⅳ】ディベートの方法を知る。

国際社会に貢献できるリーダーを育てる

心豊かなリーダーを育てる

創造力・自己発信能力をもったリーダーを育てる

国語科が育てたい児童・生徒像

教材を通して幅広い知識を習得し、独善的になることなく、多様な価値観を受容できるバランス感覚に溢れた児童

6年

月	学習項目	学習目標・学習内容	探究 【Ⅰ】仮説検証型【Ⅱ】グローバル型 【Ⅲ】創造表現型【Ⅳ】その他
4	詩【二十億光年の孤独】谷川俊太郎 説明文【大陸は動く】大竹政和 文法【名詞】	・様々な修辭法を知るとともに、詩を鑑賞する中で、作者がそこにこめたテーマについても考える。また、「感性が言語を追い越してしまう」と表現される詩人の鋭い表現について考えていく。 ・今日ではだれも疑うことのなくなった大陸移動説を初めて提唱したウェゲナーの慧眼について知り、自身の探究活動の一助とする。 ・名詞の細かな分類について知る。	【Ⅲ】「ネリリ」「キルル」「ハララ」などを「火星語」と想定した作者の詩人ならではの感性について考える。 【Ⅳ】詩中で語られる「孤独感」から、人間は他者との関わりがあってこそ人間らしく生きられるのだということを理解する。 【Ⅰ】アフリカ東部の海岸線と南アメリカ西部の海岸線の符合について検証する。
5	物語文【カレーライス】重松清 ※2020年度のみ 書く【ようこそ、わたしたちの町へ】	・同世代の主人公をフィルターとして、個々の親子関係を見つめ直すきっかけを与えると同時に、微妙な年頃における理想的な親子関係について考える。また、核家族化、共働きなどに起因する今日の変容について考えていく。 ・自分の住んでいる町のよさを伝えるポスターを作る。	【Ⅰ】作中で作られる「カレーライス」には、その時々の親子関係、主人公の様相などのさまざまなことが含意されているのではないかと仮説を立てたうえで、作品を読み進めながらそれを検証していく。 【Ⅳ】人間の精神の発達過程について考える。また、男女雇用機会均等法の施行以来の社会の変容についても考える。 【Ⅲ】表現に工夫を凝らしながらポスターを作成するとともに、プレゼンテーションの方法も考えていく。
6	説明文【平和のとりでを築く】大牟田稔 随筆【パールハーバー】の授業 文法【名詞】【動詞】【動詞の活用】	・原爆ドーム設立の経緯を知ることで、平和を希求する心を育むとともに、戦争の悲惨さについても考える。 ・戦後日本に根付いた自虐史観を客観的な視点で考察しながら、公正な歴史認識を持つことの大切さを理解する。 ・文を解析する際の基準となる言葉の単位を理解し、古典学習をはじめとした国語学的なアプローチが必要となる今後の様々なシーンに備える。	【Ⅰ】5年次に学んだ日米開戦までの経緯を、あらためて公正な目をもって検証していく。 【Ⅱ】平和を標榜する日本が、今後の国際社会で果たしていくべきことについて具体的に考えてみる。 【Ⅰ】活用する語には一定の法則性があることを、演習等で検証しながら理解を深めていく。
7	作文・ディベート	・与えられたテーマ、もしくは任意のテーマに関する作文、ディベートを行う。	【Ⅲ】原稿用紙の使い方、ディベートのルールなどを知る。
9	物語文【やまなし】宮沢賢治 伝記【イーハトーブの夢】畑山博	・きわめて詩的な世界観を持つ物語を読み進めることで感性を高めていくとともに、付属の資料「イーハトーブの夢」を通読し、自然の尊さを訴えた作者の生きざま、思いについて考える。また、グラムボンの正体に関してはこれまで諸説入り乱れ、様々な議論が展開されながらも決着がつかずにいるが、子どもたちなりに仮説を立てながら検証し、その正体を探っていくといった探究的な作業も同時にすすめていく。	【Ⅰ】「グラムボン」の正体について仮説を立て、それを様々な視点で検証していく。そのうえで、この作品にこめられた作者のメッセージに、5年次に取り組んだ「注文の多い料理店」にこめられたそれと同様のものを見出し、作者の生きざまや思いに迫っていく。また、「5月」を恐ろしい現生、「12月」を平穏な涅槃と仮定したうえで、それを本文の記述をもとに検証していく。
10	随筆【かなえられた願い】 ドナルド・キーン 文法【形容詞・形容動詞】 【動詞の活用と活用形】	・高名な日本文学研究者が抱く日本文学、および日本の伝統美への憧憬を知ることで、わが国の伝統的な言語、文化への理解を深める。また、自国の文化を知り、発信することも、「グローバル」には不可欠な要素であるということも理解する。 ・活用形の見分けがしっかりできるような訓練を積む。	【Ⅱ】真のグローバル化を図るには、まず自国の伝統的な言語文化や精神性を理解していくことが必要であるということを知る。また、集団意識を核として醸成された日本人の行動様式は、個が優先される傾向が進む現代社会にあって、あらためて評価される部分もあるのだということを知る。 【Ⅰ】活用する語には一定の法則性があることを、演習等で検証しながら理解を深めていく。
11	小説【掌の小説〜ざくら】川端康成 文法【副詞・連体詞・接続詞・感動詞】	・ノーベル賞作家の流麗かつ精緻な筆致の文章を味わうとともに、作品の随所にみられる日本的な情緒、さらには戦争がもたらした悲しみというものに関して深く考える。 ・演習を繰り返すことで理解を深めていく。	【Ⅰ】冒頭の一文「一夜の木枯らしにざくろの葉は散りつした」に、作中では描かれることのない啓吉のその後が含意されているという仮説を立てたうえで、山口誓子の句などを挙げながらそれを検証していく。また、「ざくら」に含意された意味なども考えていく。
12	【時代をこえて伝わる古典】 説明文【スマホが脳を破壊する】 川島隆太 文法【助詞・助動詞】	・奈良時代から江戸時代までの主要な日本の文学作品について、その概要を知り、日本文化、さらには日本史に関しての理解を深めていく。 ・すっかり身近なものとなったスマートフォンには多くの利便性があるが、その危険性も多く指摘されていることに着目し、スマートフォンの功罪について考えていく。同時にICT機器全般に関して、その適切な使用方法なども考えていく。 ・演習を繰り返すことで理解を深めていく。	【Ⅱ】真のグローバル化を図っていくためには、まず自国の伝統的な言語文化や精神性を理解していくことが必要であるということを知る。 【Ⅰ】東北大学の川島隆太教授の検証データを参考にしながら、スマートフォン(ICT機器)の使用時間と学力の相関関係について再検証していく。そのうえで、それらをうまく使いこなしていくにはどうすればよいのかを考えていく。
1	古典【枕草子・平家物語】 文法	・平安女流文学特有の柔らかな文体と中世隠者文学特有の硬質な文体の違いを理解するところから重点を置きながらすすめていく。 ・口語文法の総復習を行う	【Ⅳ】いわゆる「平安女流文学」と「中世隠者文学」の違いについて、歴史やジェンダーといった視点で考察していく。平安、鎌倉の両時代についての歴史的な知識も深めていく。
2	故事成語 ディベート	・故事成語の成り立ちを知るとともに、今後の漢文の学習に対するの興味・関心を亢進させる。 ・様々な社会問題に関して知り、銀論を深めていく。	【Ⅱ】中国の故事の面白さを知る。 【Ⅳ】ディベートの方法を知る。

教育方針

国際社会に貢献できるリーダーを育てる

心豊かなリーダーを育てる

創造力・自己発信能力をもったリーダーを育てる

国語科が育てたい児童・生徒像

教材を通して幅広い知識を習得し、独善的になることなく、多様な価値観を受容できるバランス感覚に溢れた生徒

7年

月	学習項目	学習目標・学習内容	探究 【Ⅰ】仮説検証型【Ⅱ】グローバル型 【Ⅲ】創造表現型【Ⅳ】その他
4	論説【十四歳からの哲学】池田晶子 文法【名詞・動詞】	・哲学とはそもそもどのような学問であるのかを知るとともに、抽象的な概念を把握することが必要となる文章に慣れていくことを目的とする。 ・6年次に取り組んだ動詞の活用の総復習を行い、国語学的に文を解析する訓練をする。後の古典学習の成否に大きくかかわるところであるゆえ、完全に理解するという目標とする。テキストは、一貫部と同じ「すらすら基本文法」を使用する。	【Ⅳ】自己の存在について、客観的な視点も持ちながら探究する。また、客観的に自己を見る目を持つことが、すなわち理性を獲得することなのだということも理解する。 【Ⅳ】体系的にまとめられた口語文法に潜む法則性を探りながら、文法への理解を深めていく。後に学習する古典文法にも応用できるということを知る。
5	小説【少年の日の思い出】ヘルマン・ヘッセ オリンピック	・主人公に裡に萌芽した「罪の意識」について考察し、6月に取り組む「夏の葬列」、さらには一貫部合流後に取り組む「羅生門」にそれを引き継ぐこととする。 ・文章を読み進めながら、東京オリンピック開催の是非について考える。また、国威発揚の手段等にも用いられてきたオリンピックの影の部分にも目を向けていく。	【Ⅳ】「性善説」「性悪説」など、人間の本质について定義した思想についても学ぶ。遠藤周作の「海と毒薬」との類似点なども提示し、比較研究していく。 【Ⅰ】オリンピックの開催および延期で発生する経済的負担に関して、様々なデータをもとに試算していく。
6	小説【夏の葬列】山川方夫 文法【形容詞・形容動詞・副詞・連体詞】	・悲しく清冽な印象の作品を通して、平和の尊さについて考えるとともに、作品に描かれた罪の意識について考える。さわめて秀逸といえる情景描写や重苦しい文体にも着眼し、その効果についても考える。 ・一貫部と共通のテキストである「すらすら基本文法」を使用しながらすすめていく。	【Ⅰ】作品の舞台となった町がどこであるのかといった仮説を立てたうえで、作中にある記述からそれを検証していく。 【Ⅲ】本作の短編小説としての秀逸さを理解し、夏の短編小説執筆という課題に取り組むうえでの一助とする。 【Ⅳ】同一となる形容詞の終止形と連体形に関して、その識別方法を探っていく。
7	ディベート	・様々な社会問題に関して知り、銀論を深めていく。	【Ⅳ】ディベートの方法を知る。
9	古文【竹取物語～蓬莱の玉の枝】 小説【夢十夜】夏目漱石	・6年次まで取り組んできた「古文に慣れる」というものではなく、「古文を読解する」という方向に目標をシフトする。狡猾な人物として描かれる「くもちの皇子」は車持氏からとったものなのかということなども議論しながら、未だ不明とされる竹取物語の作者についても推理する。 ・第三夜、第六話を取り上げ、短編小説の構成について学ぶ。また、漱石をはじめとした多くの近代知識人が懸念した「急速な欧化」「日本的アイデンティティの喪失」といたものにも触れ、その懸念が作品のどのあたりから読みとれるのかといったことにも言及していく。漱石近辺の文学史についても学習する。	【Ⅰ】【Ⅳ】藤原氏の権力独占に対する批判がこめられているという仮説に立ったうえで、作中の記述からそれを検証していく。また、不明とされる作者についても、平安の政局を検証しながら推理していく。 【Ⅰ】【Ⅱ】本作が急速な欧化へのアンチテーゼであるとの仮説を立てたうえで、それを作中の記述をもとに検証していく。また、欧米的価値観こそがグローバルスタンダードであるとする傾向にある今日の国際社会の問題点も穿つ。
10	短歌【新しい短歌のために】 文法【接続詞・感動詞】	・三十一文字で表現された豊かな世界を味わうとともに、韻文のリズム、表現技法を学ぶ。また、アララギ、明星などの主要な派閥の主義、主張なども、短歌を解釈することで考えていく。	【Ⅲ】短歌にある凝縮された表現の世界から、「言外の言」というものについて考える。 【Ⅳ】近代の歌人の歌を解釈する中で、それらの歌が生まれた要因ともなった当時の社会背景についての理解を深めていく。
11	論説【この小さな地球の上で】手塚治虫 論説【地球が分かる50話】島村英紀 文法【助詞・助動詞】	・環境問題について書かれた文章を読み、喫緊に対応していかなければならない今日の様々な環境問題について考えていく。また、種々の環境問題が人間の英知の副産物であるということにも着眼し、賢さ、愚かさとともに具えている人間が、今後どのように歩いていくべきなのかということについて考えていく。	【Ⅰ】環境問題に関して、特定の事象に絞らないうえで、破壊にいたった原因および過程を検証していく。 【Ⅱ】環境汚染に国境線はないと言われることに着眼し、問題解決には各国間の連携が必要であるということも考えていく。
12	古典文法【動詞の活用】	・8年次より本格的に取り組む文法的知識を活用しながらの古文の精読に向け、その準備に入る。	【Ⅰ】活用形の識別の際に着眼する「接続」が、口語文法と同様のものであるということを検証していく。
1	小説【蜜柑】芥川龍之介	・作者の実体験に基づいて構成された小説を読み、登場人物でもある作者がわずかの間に得た慈愛のまなざしについて考える。それとともに、芥川龍之介を中心とした新現実主義の作家についても学ぶ。	【Ⅰ】【Ⅳ】初期のいわゆる「王朝物」からの大胆な作風の転換の背景にはプロレタリア文学の台頭があったのではないかという仮説を立てたうえで、プロレタリア文学が芥川の作風の変化に及ぼした影響について考察する。 【Ⅳ】大正期の社会状況についての理解を深め、今日ある格差の問題についても考えていく。
2	古文【伊曾保物語】	・古文の本格的な精読に入る。さわめて平易な文章を文法的に緻密に解析しながら読んでいくことで、今後の古文学習の方法を身につけることを目的とする。	【Ⅳ】古典文法の緻密な法則について考える。
3	漢文導入【論語】 ディベート	・基本的な返り点のルール等を覚えるとともに、儒家の思想、さらにはそれ以外の代表的な諸子百家の思想に触れる。 ・様々な社会問題に関して知り、銀論を深めていく。	【Ⅳ】古典文法が理解できれば漢文はできるということを知る。 【Ⅳ】ディベートの方法を知る。
通年	小論文	・様々な社会問題に関して考察を深め、文章化する。	【Ⅲ】論理的な文章構成について考え、自ら書く訓練をする。

教育方針

国際社会に貢献できるリーダーを育てる

心豊かなリーダーを育てる

創造力・自己発信能力をもったリーダーを育てる

国語科が育てたい児童・生徒像

教材を通して幅広い知識を習得し、独善的になることなく、多様な価値観を受容できるバランス感覚に溢れた生徒

8年

月	学習項目	学習目標・学習内容	探究 【Ⅰ】仮説検証型【Ⅱ】グローバル型 【Ⅲ】創造表現型【Ⅳ】その他
4	論説【謎の空白時代】立花隆 古文【動詞の活用】	・空海の修行時代に言及した文章を読み、自分を高めようという姿勢の大切さについて考える。また、本文がエビログとして収録されている立花隆の「青春漂流」からの抜粋も通読することで、青春時代のあり方について考える。歴史の授業の予習という意味合いで、平安仏教界の様相についても学ぶ。 ・文法の仕組みを理解する。	【Ⅰ】空海が「空白時代」に何をしていたのかを推理する。(語学習得、人脈作り…) 【Ⅰ】【Ⅱ】空海の船が「南路」を取った理由を考える 【Ⅳ】空海の選んだ「自分で切り開いていく人生」について考える。 【Ⅳ】文法問題における出題者の意図を理解する。
5	小説【デューク】江國香織 古文【今昔物語集】	・当代随一の人気作家のみずみずしい感性に触れるとともに、短編小説の構成方法を考える。随所にみられる象徴表現を丹念に読み取りながら、作品研究をすすめていく。 ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く。	【Ⅰ】作品の設定、要素等にこめられた意味を推理する。(「渋谷」「銀座」が意味するもの、プールの出来事が意味するもの、横断歩道が意味するもの…) 【Ⅲ】【Ⅳ】他の短編小説との比較を交えながら、短編小説の構成方法について考え、夏の課題の参考とする。 【Ⅱ】当時の日本と唐の状況、関係性などを知る。
6	論説【人間は他の星に住むことができるのか】渡部潤一 古文【古今著聞集】	・火星をはじめとした太陽系の他の惑星について書かれた文章を読み、人間の火星移住の可能性について理学的に考えてみる。 ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く訓練をする。動詞の活用を応用させた助動詞の活用にも取り組む。	【Ⅰ】【Ⅳ】地球以外の星に人間が住むことができないということを知り、既知の理科的知識をもとに整理する。(大気組成、大気圧、磁場、重力、惑星配列…) 【Ⅳ】武装化した鎌倉仏教について、その経緯を考える。
7	小説【金閣寺】抜粋 三島由紀夫 古文【古今著聞集】	・ノーベル賞候補にもなった有名作家の絢爛な文体を味わい、読書の幅を広げる一助とする。 ・創作活動を通して作者が内外に示した姿勢を知り、その功罪を考える。 ・6月に同じ	【Ⅲ】絢爛な文章を味わい、夏の短編小説執筆の課題の参考にする。 【Ⅱ】作者が憂慮した「戦後の日本」について考える。 6月に同じ
9	小説【走れメロス】太宰治 古文【徒然草】	・友情を描いた作品である一方で、実はそれは国策へのアイロニーであったという仮説をたてたうえで、それを検証していくと同時に、一時話題になった「メロスは走っていない」とした中学生の考察などを取り入れながらすすめていく。また、太宰治を中心とした無頼派の文学について学ぶ。 ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く訓練をする。動詞の活用を応用させた助動詞の活用にも取り組む。	【Ⅰ】思慮が浅く短絡的な主人公を、戦争へと突き進んでいく昭和10年代当時の若者の姿、ひいては日本の姿と重ね合わせながら作品研究を進めていく。 【Ⅳ】国策文学を書いた一方で、実は国策批判と取れる作品であることを理解する。 【Ⅳ】兼好が隠者として生きることを選んだ理由を歴史的な側面から考える。
10	論説【イスラム感覚】 古文【徒然草】	・価値観の形成には環境的要素が大きくかかわっていることを知るとともに、多様な価値観の存在を認めることの大切さについて考える。 9月に同じ	【Ⅱ】いわゆる「騎馬型民族」と「農耕型民族」の思考や行動パターンの違いについて考える。 9月に同じ
11	論説【キリスト教にかけられた嫌疑】日経エコロジー 古文【醒醉笑】	・「自然の克服」を教義としたキリスト教的世界観の拡大が今日の環境問題の根底にあるとする文章を読み、環境問題について考えるとともに、10月に取り組んだ「イスラム感覚」と合わせ、イデオロギーの一義化の是非について考える。 ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く訓練をする。動詞の活用を応用させた助動詞の活用にも取り組む。	【Ⅰ】環境問題の元凶をキリスト教の教義の誤った解釈に求めた筆者の仮説について考える。 【Ⅱ】先行して学習した「イスラム感覚」の内容をふまえ、今日の国際社会における「キリスト対イスラム」の対立構図について、その原因や改善策を考えていく。 【Ⅲ】落語の元となった「落とし漸」の構成を知り、創作活動の一助とする。
12	古典文法【用言の活用】	・一貫部合流に際してのミニマムである用言の活用に関しての総復習を行う。	【Ⅳ】古典文法の緻密な法則について考える。
1	小説【セメント樽の中の手紙】葉山嘉樹 古文【今昔物語集】	・大正時代にもあった「格差」をテーマとした作品を通読することで、深刻な社会問題としてある現代の格差社会について考える。また、葉山嘉樹をはじめとしたプロレタリア文学の作家についても学習する。 ・品詞分解を施しながら、緻密に古文を読み解く訓練をする。動詞の活用を応用させた助動詞の活用にも取り組む。	【Ⅳ】大正末～昭和初期の出来事と近年の出来事の奇妙な相似について検証していく。そのうえで格差の是正や労働環境の是正に関する具体的なプラン等にも言及していく。 【Ⅳ】和歌の技法について学ぶ。
2	論説【ホンモノのお金の作り方】岩井克人 漢文導入	・金銀が価値あるものと見なされて「お金」となったこと、さらには金銀に代わり手形＝紙幣が「お金」となっていった歴史をふまえたうえで、電子マネー、仮想通貨の流通が当たり前となった現代社会について考察し、「ホンモノのお金の作り方」の鍵は社会の共通認識、価値観を変えていくところにあるのだということを理解する。 ・漢文訓読の法則を理解する。	【Ⅱ】【Ⅳ】コロナウイルスの世界的蔓延の中であらためて露呈した資本主義の限界について考える。また、資本主義、さらには新自由主義の是非についても考えていく。先行して取り組んだ「セメント樽の中の手紙」もふまえながら、経済のあり方全般について考えていく。 【Ⅳ】古典文法が理解できれば漢文はできるということを知る。
3	漢文【漢詩】 ディベート	・押韻、対句などの漢詩の技法を学ぶ。 ・様々な社会問題について議論する。	2月に同じ 【Ⅳ】ディベートの方法を知る。
学年	小論文(週1回)	・様々な社会問題に関して考察を深め、文章化する。	【Ⅲ】論理的な文章構成について考え、自ら書く訓練をする。